

# はやま もり 麓山の杜みどり通信

発行元 21世紀記念公園麓山の杜管理事務所  
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17  
TEL924-2194 FAX924-2195

## 爽やかな秋の風景です



フィリヤブラン



平成25年度「みどり講習会」



開催 10月20日(日) 10:30~11:30  
場所 麓山の杜 『杜のエントランス』

テーマ 「記念樹の育て方初歩講座」

※ワンポイント  
落葉樹の剪定  
(ポタンやクリスマスローズの植え替え)

記念樹交付「10時~15時」他は事務所へ

### ガーデニング ワンポイント

## 秋の作業が続きます。

暑さ寒さも彼岸までと言われますが、今年も例外ではなく空気を入れ替わりあの暑い夏から爽やかな秋となりました。空が高くなり吹く風にススキやコスモスが揺れています。またキンモクセイの香りが漂ってきます。落葉樹の葉もその役目を終える前に色づき始めましたね。

【水やり】 これからは乾燥もしにくくなりますが、雨が降らない時や植え替えた場合は必要ですから乾いてきたらたっぷりとあげます。乾き具合は土の表面を見て判断します。水やりは、水分を根に届けると同時に新鮮な酸素を供給するのが大きな目的です。根腐れとは根に酸素が不足し窒息の状態のことです。

【肥料】 多くの樹木はこの時期は肥料を必要とします。ただ、草花などはこれからの時期には必要になります。大きく丈夫に育てるための栄養です。芝生も今月中に肥料をあげます。

【病害虫防除】 針葉樹につく夏に発生したマツカレハもまだ小さいので今の時期に防除をしておきます。幼虫(ケムシ)の状態越冬します。ただこの害虫の抜け殻の繭に触ると痒みが生じますので注意が必要です。刺されるとひどい痒みが生じるイラガもまだ葉の裏などに同じ色をしてついています。各種のカイガラムシも多くの樹木に発生しています。また合わせてすす病も併発して見た目にもひどい状態の場合も見られます。ハナミズキやシラカシなど多くの樹種にうどん粉病が発症していますので殺菌剤の散布が必要です。病気は発生する以前の予防が大切です。また発生しにくい状態にしておくことも大事です。病害虫に対してはこまめに観察して拮がらないうちに退治するようにします。そうすれば薬剤なども少なく済みます。病気が発生した落ち葉などは処分することにより次の発症が少なくなります。一般的には余分な枝などを剪定して

### 【お知らせ】

◇記念樹交付日について◇  
(次回交付日)

・ 11月10日(日)

・ 3月9日(日)

♣みどり講習会も開催致します。

♣お気軽にご参加ください。



21世紀記念公園 麓山の杜「みどり通信 No.88」 発行日：平成25年10月3日  
風通しを良くするのも大事です。

【**剪定**】 これからの時期の常緑樹は弱めの剪定をします。その後の芽の吹きが悪くなるためです。落葉樹の強めの剪定は落葉後まで待ちます。樹木は、この時期に光合成を盛んに行い樹体内にエネルギーを蓄えます。それで厳しい冬を乗り切り来春からの成長に使います。**剪定は自分（観賞する側）の都合だけにするのではなくそれぞれの樹木に合ったやり方で行います。**

【**植え替え**】 キンモクセイやサザンカが園芸店の店先に出回りますが、暖かい地方で育てられた樹木は寒さに対しての抵抗力も少ないために枯れてしまう確率が高くなります。常緑樹はこの地域では春先が最適期となります。落葉樹は晩秋からが適期になります。条件が悪くても枯れにくいようです。何事も適期を逃さないで作業する事が大事です。ただしサルスベリやザクロなどの暖地性の樹木（春の芽の吹く時期が遅い種類）はこれからの時期はいくら落葉樹と言っても良くありません。来春まで待ちます。秋植えの球根や草花も時期を逃さないように早めに済ませます。綺麗な花を咲かせるためには用土や肥料を吟味する事が大事ですよ。

### 【交付日イベント・みどり講習会予定】

次回交付日	みどり講習会	季節のワンポイント
11月10日	記念樹の育て方初歩講座	寒肥と寒さに弱い樹木の冬越しについて

## 近頃気になる病害虫です

先日、造園業の方からアカマツの所々の枝が枯れているのですがとの質問を受けました。診ますと弱い枝が枯れています。ただ元気な枝は切ってみると樹脂（松ヤニ）がすぐ出てきます。樹木自体は弱っている状態ではないようです。真夏に剪定されて枝数や葉が少なくなり輻射熱も多く受ける所でしたので、暑さによる枝枯れと考えられます。マツザイセンチュウによる萎凋病（マツノマダラカミキリ）では無いようです。ただ今年の夏も暑さが厳しい為に弱りそこにマツノマダラカミキリに後食されて萎凋病にかかってしまい枯れたマツ類が多く見られます。山林だけではなく庭のマツも枯れている状態です。樹勢を衰えさせないような管理をして定期的に薬剤散布を行うのが対処方法です。

また同じ日に別の造園業者からアカマツの葉が緑の色が抜け白けてきたとの質問を受けました。この病徴はこれからの時期に多く見られますが、病名を特定するのは難しいようです。葉が赤茶けてしまったりする事も近頃おおく見かけます。マツ葉ふるい病やマツ褐斑葉枯病やマツ赤斑葉枯病が疑われます。対処としては病気の葉は可能な限り取り除き病気の元を絶つことです。そして殺菌剤を定期的に散布します。

## 《街で見かけた樹木》

### チャノキ

ツバキ科の常緑低木です。鎌倉時代に僧の栄西が中国から持ち帰ったのが始まりと言われています。藪北が有名な品種です。秋に白い香りのある花を付けます。翌年の秋に実が出来ますのでそれを蒔くと簡単に殖やせます。ただ移植は嫌います。結納の品に入れるのはその為です。麓山荘では抹茶も楽しめますのでどうぞ来てください。

